

竹下大臣・小泉政務官ぶら下がり会見
平成27年5月22日（金）12:24～12:32
於）農林水産省北別館1階「消費者の部屋」

1. 発言要旨

（竹下復興大臣）

ちょっと塩辛かったですけれども、おいしかったですよ。我々の田舎にもワカメがありまして、我々のところは乾燥して軽く火であぶって、「めのは」という形で食べるのが多いんですけれども、こちらのワカメはおいしいですよ。やっぱり太平洋の荒波にもまれた海藻ですから、本当にうまいな。うまいものいっぱい、岩手にもありますので、皆さん方にぜひ、岩手来ていただいて、食べていただいて、楽しんでいただいて。今、まだずっと工事しておりますが、三陸海岸というあのリアス式の海岸というのは、いいですよ。ぜひ旅に訪れていただいて、あの景色、日本中ないですから、楽しんでいただきたいし、まだまだ岩手にいっぱい良いものありますので、ぜひ皆さん方に、まずよく知ってもらうこと、それから来てもらうこと、リピーターになってもらうこと。もう既にリピーターになっております小泉君が今日一緒に来ておりますので。

（小泉政務官）

こうやって農水省という役所の中で、だけれども一般の方が入れるところにやっていただくというのはありがたいですね。あとはこの前、先月大槌町に行って、新巻鮭の発祥が大槌ということを知ったんですよ。だから今回ワカメとシイタケですけれども、新巻鮭なんか、例えば年末のときに年始の贈物とかいろんなとき、お歳暮とか含めて、新巻鮭をどうですかとか。僕結構周りに聞いたんですけれども、新巻鮭の発祥は北海道だと思っている人のほうが多いですよ。だけれども大槌だというんで、これ、もっと岩手県の皆さんも新巻鮭、シーズン、売り出したらいんじゃないですかね。期待しています。

2. 質疑応答

（問）パネル展もありましたが、岩手の復興、どのように見ていらっしゃいますでしょうか。改めてお願いします。

（竹下復興大臣）

津波の被害が大きかったところは今、高台を作ることに精いっぱい状況のところはありますけれども、明らかに見え始めています。明らかに復興に向かって見え始めて、「ここに住むんだな」ということを、住民の皆さん方にも実感し始めて頂いております。この実感し始めて頂いたものをこれから一つ一つ、現実の

ものにしていく、それも早くしていくというのが我々の仕事でございますので、懸命に取り組んでいきたいと、こう思っております。

(問) 今、食品に関して審査会、4年も経ってまだまだ輸入規制が行われていたり、風評被害の部分がかなり大きいと思うんですけれども、これについてお二人のお考えをお願いします。

(竹下復興大臣)

悔しいですよ。もう全然安全だし、美味しいし。今輸入規制をしている国でも、好んで日本のそういった美味しいものを食べようという人たち、たくさん出てきております。だからできるだけ多くの人に食べてもらいたいけれども、残念ながらまだ風評被害が払拭し切れていませんので、十分に提供することができないというのは悔しいですけれども、もうこれは緻密な努力、積み重ねの努力でしか、あるいは一定の時間でしか解決ができない問題だと思いますので、これからも引き続き懸命に努力していきます。

特に総理自身も被災地に行っているいろんなものをしょっちゅう食べておられる。そのことをメディアの皆さん方に知っていただくと同時に、官邸ではもう東北の米しか今使っておりません。官邸の米は全て東北の米であります。

それから、5月の連休に海外出張する閣僚がたくさんいたんですが、閣議で、出張に行った国で「必ず日本の国のものは安全だということをきちっと話してこい」というのが総理の指示としてありました。それぞれの閣僚の皆さん方、それも実行してもらいまして、徐々にではありますけれども、そういうものを薄めていかなきゃいかん、効果上げていかなきゃいかん。こう思っております。

(小泉政務官)

今回、台湾がそういった輸入禁止ということで話題になっていきますけれども、私は自民党青年局長時代、その時の上司も竹下組織運動本部長という形だったんですけれども、毎年台湾に行っていました。台湾と日本は特別な絆で結ばれた関係ですから、今回の措置は大変残念ですけれども、台湾の一人一人の皆さんの日本に対する思いは決して揺るぐことないし、日本から台湾に対してもそうですから、科学的な根拠に基づかない、そういったことに対しては丁寧に説明を絶やさず続けていくと、そういったことに尽きますし、恐らく台湾の中でも日本のもの、早く食べたいなと、そう思っている人がいっぱいいると思いますよ。

あとは先ほど、南部鉄器の話がありましたけれども、食品以外で日本の東北の魅力を世界に対して訴えていく、そのツールはいっぱいあるわけですから、今インバウンドが増えていて、1,300万人

の方が来ている中で、そういったところも訴えていく、売っていく、これを力強くやるべきだと思いますね。

(問) 今日、ワカメとかいろいろ岩手の食材、召し上がったと思うんですが、今和食が非常に世界に発信されている中で、もし御自身で岩手のものを世界に、これをというふうにお勧めするとすれば、大臣、政務官、それぞれどういうものを。

(竹下復興大臣)

困りましたね…。一つは、昔は米といいますのは割と南のほうの主たる生産地だったんですが、今や東北地方、北海道が一番米の最適地になっております。米は美味しいだろうと。もうこれは自信を持って言えます。

それからその上に海産物がある、それからシイタケを初めとして、山でとれるもの、畑でとれるもの、いっぱいありますので、これ一つということとはなかなか言えませんが、どんどん食べに来てください。美味しいですよ、本当に美味しいですよ。

(小泉政務官)

こういうのって一つ言うとはかが怒るんだよね。なかなか難しいんですけども。もっと多くの外国の方に和食をとというのもそうなんですけれども、もっと日本人自身が認識をしてもらいたいこといっぱいありますよ。世界三大漁場の一つがああ三陸だということもそうだし、岩手であれだけの麺文化も根づいていて、ジャージャー麺も冷麺もわんこそばも、これ、三大麺ですよ、岩手の。あとはもち米も岩手が日本一ですから。それで一関というのは毎年「わんこ餅コンテスト」をやっているんですよ。一体救急車、どれぐらい配備されているのかと僕思いましたけれども、何種類の餅あるんですかと聞いたら、この前、一関の市長さんは300種類と言いましたよ。だからまだまだ、私たち日本人でもしっかり認識していない岩手の魅力、食の魅力、文化の魅力がありますから、この発信も岩手県の皆さんと一緒にあって私もやっていきたいなと思います。

(以 上)